

遠藤実議会報告誌 新春版（臨時号）

【 平成27年第4回定例会の報告 】

平成27年第4回定例会が、11月26日から12月11日まで16日間の会期日程で開催されました。今回は「平成27年度那珂市一般会計補正予算」「指定金融機関の指定」など20議案を審議し、「那珂市市民投票条例」を否決しました。今回は22名中10名の議員が一般質問を行いました。私は「協働体制の推進」「防災体制の強化」について質問しました。

【 一般質問 】

1. 「協働体制の推進」について

過去に提案した「市民討議会」の開催を重ねて訴えましたが、前向きな答弁はいただけず。その他、日常的に市民からの提案を受け付ける先進事例「ちば市民協働レポート」を活用し、スマホを使って地域の困りごとを市役所に写真付で報告して改善を図っては？と提案しました。今後、研究するとの事。

2. 「防災体制の強化」について

過去に数回提案した「市内一斉での防災訓練実施」を訴えましたが、市執行部にやる気はありません。本当に困ったものです。その他各種防災体制の現状をチェックしました。

【 重要案件 】

今回は、2件の重要議案がありました。

1. 「指定金融機関の指定」

現在、指定金融機関は常陽銀行のみですが、来年より筑波銀行と、3年ごとの輪番制にする内容です。私は常任委員会で、指定基準に照らして疑義を質したところ、執行部から十分な答弁が得られなかったため、「議会としても調査権を発揮して当事者からもいろいろ意見を伺うべき」と反対討論を行い、さらに本会議でも反対しましたが、14対7で可決となってしまいました。

2. 「那珂市市民投票条例」

本件は、現在でも地方自治法で住民投票が出来るよう規定してあるのに、発議の方法をあえて変える条例案です。発議方法は、法律（個別型）では「住民からは有権者の50分の1以上の連署が必要、首長からは議会にかけて議会の議決が必要」ですが、この条例案（常設型）では「住民からは有権者の5分の1以上の連署が必要、首長からは議会の声を聞くだけで議決は不要」になっていました。

常設型では投票資格者（外国人を入れるか等）や投票方法（二択か三択か等）も前もって決めてしまうので、ケースごとに柔軟に対応できません。また、ワンマンな首長の場合、議会のチェックを経ずに何でもかんでも住民投票にかけることが可能となるため（それでも住民投票をするには1300万円くらいかかります）、議会制民主主義の根幹をも揺るがしかねない問題であり、さらに議論も全く煮詰まっていなため、私は常任委員会・本会議で反対討論を行いました。結果、11対10で否決となりました。

本件が可決すれば常設型の住民投票条例制定は県内初となるため、この様子は、マスコミにも大きくとりあげられました。この常任委員会・本会議の様子はNHKで2週にわたって私の発言が放送され、新聞各紙でも私の発言が掲載されました。今後も、ワンマンで強引な手法を「決して許さない」という信念を持って、活動してまいります。どうぞよろしく願いいたします。

27.12.3 茨城新聞
那珂市

議会「個別型で十分」

常設型市民投票条例案
市民「思いくみ取って」

<p>常設型の市民投票条例案を審議した2日の那珂市議会総務生活常任委員会。議会の議決なしでも市民投票が行える仕組みに対して多くの委員が反発し「個別型で十分」「議論がまだ足りない」とする意見が相次いだ。採決の結果、賛成少数で否決され、市民30人が詰め掛けた傍聴席からは「重要課題について直接、意思表明したいとの市民の気持ちもくみ取ってほしい」との声が聞かれた。</p> <p>同条例案の審議には、海野徹市長も出席。市長の発議や、有権者5分の1以上の署名提出を条件とした市民の</p>	<p>請求、議会の発議で、市民投票が行われる特徴が説明された。</p> <p>質疑の中で遠藤実氏は、市長と市民の請求だけで市民投票が可能になる点に關し「ワンマンな市長の場合、いくらでも市民投票をかけるられる。議会の議決権を剝奪する条例で問題がある」と反対を表明した。</p> <p>小宅清史氏も「市民のためでなく市長のための条例案になっていないか。議会の議決が不要となり、二元代表制を崩してアンバランスに陥っている」と批判した。</p> <p>執行部側は、個別型に常設型を加える併設</p>
<p>制度であることを補足説明。その上で個別型の7割以上が議会で否決されている全国的傾向を指摘し、「常設型は市民のための究極の投票条例」と意義を強調。投票経費の目安として、1100万〜1300万円と示した。</p> <p>(武藤秀明)</p>	<p>同条例検討委員会に公募で加わった庄司元次郎さん(60)と菊池賢一朗さん(63)は「検討委員会は8回、20時間以上の議論を積み重ねた。ぞんざいに扱われた感じがする」と肩を落とした。</p>